

令和 6 年度

教職課程

自己点検・評価報告書

浜松学院大学短期大学部

令和 7 年 3 月

浜松学院大学短期大学部 教職課程認定学科一覧

- ・ 幼児教育科（幼二種）

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検・評価	2
	基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	2
	基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援	6
	基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム	10
III	総合評価（全体を通じた自己評価）	14
IV	「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス	15
V	現況基礎データ一覧	15

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

(1) 大学名：浜松学院大学短期大学部

・教職課程設置学科：幼児教育科（幼稚園教諭二種免許状）

(2) 所在地：静岡県浜松市中央区住吉2丁目3番1号

(3) 学生数及び教員数 (令和6年5月1日現在)

学生数： 教職課程履修 217名／全体218名

教員数： 教職課程科目担当 10名／全体13名

2 特色

浜松学院大学短期大学部の開学の礎は、昭和8年廿日出彪（はつかで ひろし）によって創設された法人組織の興誠学園にある。その建学精神は、「興誠」即ち“誠を興す”ことである。その趣旨は、「誠を興し、誠に行動し、誠を普くする」ことであり、誠による徳の教育である。「興誠」の二文字は、儒教の教えを記した中国の古典「中庸」の教えを基にしている。

興誠学園は高等教育の充実に寄与することを旨として、昭和26年4月には「浜松短期大学」を開校した。更に、平成16年4月に「浜松学院大学」を開校した同時に「浜松短期大学」を「浜松学院大学短期大学部短期大学部」に改称した。

教育理念は、「高潔なる倫理観に立って、他を思いやることができる真に豊かな人間性を基礎に、変化に対応できる想像力と実践力を身につけた職業人を育成」である。いわば実学を旨とする高等教育機関を目指している。

(1) 責任ある自己実現と社会貢献の人づくり

産業や経済構造の変化と情報化や国際化が進む中であっても、本学は、真に豊かで成熟した民主主義社会を志向する人材を育成することを目指す。そのために学生が責任ある自己実現を図り、社会貢献の力を高めることができる学びと実践練磨の場を提供する。

(2) 専門的実務能力「能く生きる」と共生協調能力「善く生きる」を兼備した人材を育成する。

専門的実務能力「能く生きる」とは、高い専門性と逆境を乗り越えながら最後までやり抜く行動力と実践力である。共生協調能力「善く生きる」とは、他者との協調性や自己や他者との対話などのコミュニケーション能力のことである。

この理念を具現化するためには、地域社会と提携して、一人ひとりの学生が能動的な学び（アクティブ・ラーニング）を継続して行い、深い学びを積み上げることが必要である。

Ⅱ 基準領域ごとの教職課程自己点検・評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1－1 教職課程教育の目的・目標を共有

〔現状〕

①教職課程教育の目的・目標を、建学の精神および各学科における専門教育の現状、3つの方針等を踏まえて設定している。

本学の教職課程教育は、Ⅰ教職課程の現況及び特色の「2 特色」に示した建学の精神、教育理念を踏まえ、地域の幼児教育に貢献することができる人材を養成することを目標としている。

また、教職課程の科目は、幼児教育科のアドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）に基づき入学した学生を、ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に則り、目標に掲げる教員へ養成することを目指し、開講されている。この3つのポリシーは、建学の精神、教育理念に基づき、明確かつ簡潔に文章化されている。

よって、教職課程教育の目的・目標が建学の精神、教育理念、3つのポリシー等を踏まえて設定しているといえる。

②教職課程教育の目的・目標を、育成を目指す教師像とともに学生に周知している。

幼児教育科は資格取得を目指す学生がほとんどであり、学科の目的が教職課程教育の目的と同等といえる。HPにて教員養成の目標を示している。

また、幼児教育科の目的を学生便覧に記載している。学生便覧は学生及び教職員に配布し周知している。

こうした教職課程教育の目的については、新入生オリエンテーションにおいて十分な説明を行った上で、履修登録を行う仕組みを採用している。

③教職課程教育を通して育もうとする学修成果（ラーニング・アウトカム）が、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）を踏まえて具体的に示されるなど、可視化を図っている。

上記①、②に記載の通り、本学の教職課程教育は、幼児教育科ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与方針）に基づいている。教職課程教育を通して育もうとする学修成果については、HPに明記している。

〔優れた取組〕

教職課程教育の理念や目的・目標を共有し、加えて教職課程の重要性を認識した上で、教育が行われている。

〔改善の方向性・課題〕

本学の教職課程教育の目的・目標をより一層学生に周知し、教職員と学生が目指す教員像を共有した上で、一体となって教職課程教育を進めていくこと。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料 1－1－①：建学の精神、教育理念
<https://www.hamagaku.ac.jp/hamatan/guide/overview/>
- ・資料 1－1－②：ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー
<https://www.hamagaku.ac.jp/hamatan/introduction/department/>
- ・資料 1－1－③：学生便覧
<https://www.hamagaku.ac.jp/hamatan/introduction/syllabu/document/binran.pdf>
- ・資料 1－1－④：教職課程 情報公開（幼稚園教諭二種免許状の課程）
<https://www.hamagaku.ac.jp/hamatan/pdf/license-kinder.pdf>

基準項目 1－2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状〕

①教職課程認定基準を踏まえた教員を配置し、研究者教員と実務家教員及び事務職員との協働体制を構築しているか。

本学では、教職課程認定基準を踏まえて、十分な教育研究業績を有する、教員を配置している。

全学的な組織としては、教職課程及び教員養成に係る諸業務を組織的に推進することを目的とした教務委員会で「教務委員会」を行っている。

②ICT（情報通信技術）環境(オンライン授業含む)、模擬授業用の教室等、教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備が整備されているか。

ICT教育環境については、学内 Wi-Fi の利用が可能であるのに加えて、ほとんどの教室にプロジェクターを設置している。また PC 教室を設置しており、授業時間以外は常時開放している。

通常の講義教室は、黒板やホワイトボードが設置されている。

その他、教職課程教育を行う上での施設・設備については体育館等の運動施設、音楽教室、調理実習室、小児保健実習室などの施設・設備が整えられている。

③教職課程に関連する図書が整備されているか。

ラーニングラウンジを設け、教職課程に関連する図書、教科書などが配架されている。

また、布橋キャンパスの図書館には、入口付近に教職課程専用コーナーを設け、教科書、学習指導要領、教員採用一次試験の過去問等を 400 冊配架している。教育の棚には、各科目の学修を深めるための書籍が充実して配架しており、教育関係は約 1 万冊に及ぶ。教育分野の DVD が約 200 本、教育雑誌も 40 冊も含まれる。随時、住吉キャンパスへの貸し出しが可能となっている。

④教職課程の質的向上のために、授業評価アンケートの活用を始め、FD(授業・カリキュラム改善、教育・学生支援体制の整備等)やSD(教職員の能力開発)の取り組みを展開しているか。

FD活動の一環として授業評価アンケートを実施しており、結果を公開している。

教職課程の質的向上に向け、FD(授業・カリキュラム改善、教育・学生支援体制の整備等)を常に実施し、教育研究委員会の委員が分担、協力し合って、授業時間外での研修機会を提供している。

全国私立大学教職課程協会が開催する研究集会等、学外で開催される教職課程に関する研究会や講演会に積極的に参加、情報収集に努めている。

⑤教職課程に関する情報公表を行っているか。

改正免許法施行規則第 22 条の 6 (2015 年 4 月 1 日施行)に沿って、HP 上にて情報公開を行っている。

1. 教員養成の目標とその計画
2. 教員養成の組織、教員数及び各教員が担当する授業科目
3. 各教員の学位及び業績
4. 教員養成の授業科目、授業方法及び年間の授業計画
5. 卒業者の教員への就職状況

⑥教職センターと学科教職課程が連携し、教職課程の在り方により良い改善を図る事を目的とした自己点検評価を行い、社会情勢や教育環境の変化等を踏まえて、教職課程の在り方を見直すことを組織的に機能しているか。

今年度より、教職課程の自己点検評価を開始し、組織的に教職課程の在り方を見直すことに取り組んでいく。

〔優れた取組〕

研究者教員と実務家教員及び事務職員が常に協働しながら、取り組んでいる。学科の設備は充実しており、教科に関する科目運営のための環境は充分整っているものとする。教職課程履修学生にとって集大成といえる教育実習については、学生の実習状況を踏まえて、教職課程専任教員及び学科の担当教員が巡回指導の際に可能な限り責任

実習の際に訪問するよう日程を調整している。

〔改善の方向性・課題〕

研究者教員と実務家教員及び事務職員が常に協働しながら、取り組んでいる一方で、教職課程のマネジメントを掌る全学的組織と学科の教職課程において連携のための有効的な方策を立てる必要がある。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・ 資料 1－2－①：教務委員会規程
- ・ 資料 1－2－②：教員紹介
<https://www.hamagaku.ac.jp/hamatan/introduction/educators/>
- ・ 資料 1－2－③：教職課程 情報公開（幼稚園教諭二種免許状の課程）
<https://www.hamagaku.ac.jp/hamatan/pdf/license-kinder.pdf>
- ・ 資料 1－2－④：授業評価アンケート結果
<https://www.hamagaku.ac.jp/hamatan/pdf/hyouka.pdf>
- ・ 資料 1－2－⑤：FD 教員相互授業参観について
- ・ 資料 1－2－⑥：HP 情報公開ページ
<https://www.hamagaku.ac.jp/hamatan/guide/information-disclosure/>

基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状〕

①当該教職課程で学ぶにふさわしい学生像を「アドミSSION・ポリシー（入学者受入れの方針）」等を踏まえて、学生の募集や選考ないしガイダンス等を実施しているか。

基準項目 1-1 ①でも記したように、アドミSSION・ポリシーは、教育理念や教育の目的などを踏まえ、学力の 3 要素とも関連付いており、本学が求める能力、適性等についても分かりやすい表現でまとめられている。

また、受験生はポリシーを理解することで、教育理念や方針を見極めた進路選択が可能となることから、本学のアドミSSION・ポリシーは適切である。入学者選抜において出願してきたことで各分野に興味関心、学ぶ意欲を持っていると受け取るとすれば、全ての入試においてアドミSSION・ポリシーに基づいた入学者選抜が行われている。

②「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）」等を踏まえて、教職を担うにふさわしい学生が教職課程の履修を開始・継続するための基準を設定しているか。

幼児教育科は幼二種の資格取得を目指す学生がほとんどであり、入学時のモチベーションを持続させるためには、1 年次からの教職課程支援が必要不可欠であり、2 年間一貫した学生指導・支援を行っている。1 年次は教職の意義と基礎理論を学ぶ指導法の基礎を学ぶ、2 年次は教科・教職の専門性と実践力を養う、実践と応用、となっており、それぞれの学年に応じたプログラムとなっている。

③「履修カルテ」を適切に活用しているか。

1 年次に『教職課程履修カルテ』作成について説明して入力している。『履修カルテ』は 2 年次の「保育・教職実践演習」において入力して学習成果の向上に努めている。

〔優れた取組〕

1 年次に観察実習を実施し、実際に現場に行くことによって、自身の将来像について理解を深めるとともに再認識できる。教員としての適性を自覚させるとともに、教職を目指す意識を高めている。

〔改善の方向性・課題〕

履修登録の登録ミス、履修漏れが起こらないようにしていきたい。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 2-1-①：幼児教育科教職課程履修規程

- ・資料 2－1－②：シラバス「保育・教職実践演習（幼稚園）」

基準項目 2－2 教職へのキャリア支援

〔現状〕

①学生の教職に就こうとする意欲や適性を把握している。

幼児教育科は幼二種の資格取得を目指す学生がほとんどであるが教職に対する意欲や適性の把握のため、幼児教育科の教員と学務グループで学生の成績や進路希望などに関する情報を共有し、学生の指導に活用している。成績不振者や意欲減退者については、学期末に指導を行い、本人の状況を確認したうえで、激励している。

②学生のニーズや適性の把握に基づいた適切なキャリア支援を組織的に行っている。

学生のニーズや適性をもとに、関係教職員全体でそれぞれの目指す進路の実現に向けたサポートを実施している。教育課程内でのキャリア支援、教育課程外での取組みを下記に記す。

（１）教育課程内でのキャリア支援

キャリア関連科目

幼稚園教諭を養成するという学科の特性上、必要に応じてさまざまな実習科目を開設している。また、資格取得のために必修となっている実習科目を置いている。学生が自らの資質を向上させるため、現場で実際の業務に取り組むことを通して、学生は高度な実践力を身につけている。

（２）教育課程外での取組み

ア キャリア支援グループ

（ア）前期オリエンテーション時、成績発表時

（イ）学生面談

キャリア面談を定期的に実施し、就職活動の進捗状況を把握、実践的なサポートを行い、活動の活性化を図っている。

（ウ）個別支援（履歴書・エントリーシートの添削、面接練習等）

（エ）筆記試験対策（「HGU ラーニング」、「就職試験対策講座」）

筆記試験対策として、１年次から WEB 学習できる「HGU ラーニング」の実施、２年次希望者対象の「就職試験対策講座」の開講により、SPI 試験対策や、社会人としての一般常識・基礎知識を身につけさせている。更には、資格取得・公務員試験合格奨励金給付による学生の自己成長援助も行っている。

就職試験対策講座 受講者推移 表 2

年度	2019	2020	2021	2022	2023	2024
受講人数	54	32	14	19	22	22

- (オ) ボランティアの情報提供（メール・掲示）、事前ボランティア届と報告書の受理
- (カ) 新卒応援ハローワーク、しずおか JOB ステーション、その他学外資源との連携
- (キ) 社会人マナー・作文講座
- (ク) キャリア支援室（求人票、過年度就活生の試験報告書、問題集等の貸出）

個別支援の場であるとともに、就職に関する資料室としての機能も持たせており、各種参考図書、就職試験問題集、ビジネスマナーや文書作成等の参考書、職業観や勤労観養成の参考図書、資格取得問題集を配架し、貸出しも行っている。更に、過年度就活生の「試験報告書」を自由閲覧できるようにしており、実際の試験内容から受験対策が行えるよう支援している。

- (ケ) 幼児教育科の支援特徴

本学完全オリジナルの「就職のてびき」を作成し、時流に合わせたアップデートを重ねながら専門性の高い職業への就職活動のバイブルとして全員に配布し、応募書類の作成から内定礼状まで網羅した内容で支援をしている。

③教職に就くための各種情報を適切に提供している。

就職資料室内に教員採用試験に向けた参考書、教科書などを常備し、常に学生が参照できるようにしている。

また、教員採用試験対策講座の案内など、新しい情報については、速やかに教職員間で共有し、教職課程の授業や学内のポータルサイトで学生に周知を図っている。もちろん教員採用試験等の要項もポータルにて配信して周知を図っている。

④教員免許状取得件数、教員就職率を高める工夫をしている。

基準項目 1－2 ①、上記の基準項目 2－2 ②に記したように様々な取組みを関係の教職員全体で行っている。

⑤教職に就いている卒業生や地域の多様な人材等との連携を図っている。

教職課程を履修の学生に限らず、卒業生の就職先に、実習懇談会の際にアンケートを依頼している。卒業後の就業状況の把握だけでなく、卒業後もつながりを持つことで、オープンキャンパス時に招聘して後輩への学びに役立てている。

詳細は下記にそれぞれ記すとおり。

- (ア) 卒業生に関するアンケート

実習懇談会の際に、卒業生が在学中に身に付けた資質・能力等について、アンケート

に回答していただき、教育の成果や効果について検証している。

(イ) HP で卒業生のキャリア相談・求職登録を受付

卒業後のキャリア支援窓口として、HP を活用し門戸を開いている。

3, 進路決定状況（就職実績）

表 2-2-3 過去 5 年間の進路決定状況 （単位：人）

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
公立幼稚園	4	1	0	1	2
私立幼稚園	35	24	34	19	15
公立保育園	0	3	1	1	3
私立保育園	22	21	28	28	24
公立こども園	0	1	2	0	1
私立こども園	55	48	41	53	50
公立社会福祉施設	1	3	0	2	2
私立社会福祉施設	8	8	2	10	3
企業	0	2	3	1	1
合計	125	111	111	115	101

〔優れた取組〕

関係教職員全体でそれぞれの目指す進路の実現に向けたサポートを実施しており、成果を上げている。また、本学では幼二種、保育士と複数の資格を取得できるため学生各々で履修の工夫が必要となるが、履修モデルの提示だけでなく個別の履修相談にも対応をしている。

また、卒業生に対するキャリア相談対応や、求職登録を行い、卒業後のフォローアップを行っている。

〔改善の方向性・課題〕

教育課程内外におけるキャリア支援は着実な成果を上げており、支援体制はおおむね整備されていると判断できるが、卒業生に就職試験対策等を行えるようにしていきたい。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 2-2-①：幼児教育科「就職の手引き」目次
- ・資料 2-2-②：【就職先向け】令和 6 (2024) 年度卒業生に関するアンケート集計結果
- ・資料 2-2-③：就職状況

<https://www.hamagaku.ac.jp/hamatan/employment/data/>

基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状〕

①教職課程科目に限らず、キャップ制を踏まえた上で卒業までに修得すべき単位を有効活用して、建学の精神を具現する特色ある教職課程教育を行っているか。

教職課程に限らず、キャップ制を踏まえた上で卒業までに修得すべき単位を有効活用して、建学の精神である「誠を興す」を具現化する特色ある教育を行っている。幼児教育科の教職課程を履修するものは半期ごとに 28 単位の履修制限を設定している。(履修に関する規程第 3 条)

②法令、教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画、学習指導要領及び教職課程コアカリキュラムへの対応が図られているか。

教職課程カリキュラムは、文部科学省の法令に則り、幼児教育科の目的を踏まえた教職課程科目とそれ以外の学科科目の系統性の確保を図り、カリキュラム検討委員会と連携を図りながら、各科目が無理なく履修できるように学年配当などを見直し、工夫して編成している。

具体的には、1 年次は基礎的な科目を中心に学び、2 年次以降は専門的な科目を学ぶよう、基礎から専門へと段階的・系統的にカリキュラムが編成されている。

③教職課程カリキュラムの編成・実施にあたり、所在する都道府県・政令指定都市教育委員会の策定する教員育成指標をふまえる等、今日の学校教育に対応する内容上の工夫がなされているか。

2 年後期の「保育・教職実践演習」では、教員になる上での自己課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることによって、教職生活をより円滑にスタートできるようにすることを到達目標としている。①使命感や責任感、教育的愛情 ②社会性や対人関係能力 ③子ども理解や学級経営 ④教科等の指導力を中心に資質・能力を高めることが目的とされていて、リフレクションで自己課題を導き出し、フォローアップで解決策を生み出す展開となる。その自己課題を導き出す際に「教員育成指標」を参考にしている。

④学校における I C T 機器を活用し、情報活用能力を育てる教育への対応が充分可能となるように、情報機器に関する科目や教科指導法科目等を中心に適切な指導が行われているか。

「情報リテラシー I ・ II」を 1 年次の必修科目、また専門教育科目内の「スマート保育入門」で「プログラミング」を学べる選択科目で設定している。さらに、情報化に対応するために I C T 活用指導能力を育成することにも積極的に取り組んでおり、教職課程の「教

育方法の理論と実践」において、将来教員として、デジタル教材やICTを活用した授業を展開するための基礎的な知識や技術の育成にも力を入れている。

⑤授業科目の到達目標に応じ、少人数のアクティブ・ラーニングやICTを活用した新たな手法を導入し、「考える」「話す」「行動する」などの多様な学びをもたらす工夫が行われているか。

8割以上の科目でアクティブ・ラーニングを取り入れている。グループワーク含め学生間の協働による授業を充実させ、課題発見力・課題解決力を育成している。

⑥教職課程シラバスにおいて、各科目の学修内容や評価方法等を学生に明確に示しているか。

全ての科目について、授業の概要や到達目標、ディプロマポリシーと関連付けられた評価方法、各時間の授業内容によって構成され、ホームページ上で公開されている。教職課程に関する科目についても、この方法に沿って、学修内容や評価方法が学生に明確に示されている。

⑦教職課程において特に重要な役割を果たす教職実践演習、教育実習（学校体験活動を含む）は、事前指導・事後指導を含め、大学の主体的な関与の下で適切に行われているか。

「保育・教職実践演習」は、これまでの活動を通じて学生が修得した資質能力と不足している知識・技能を分析し、自己課題を導き出す。

大学の主体的な関与の下で教育実習を実施するため、「教育実習事前・事後指導」として前後15回にわたり指導を行っている。また、実習前より協力校との連携を緊密に図り、教育実習先への巡回指導の際、可能な限り責任実習を参観し、実習先からの要望や意見をうかがっている。また、緊急の事態が発生した場合には、担当教員が出向いて対応しており、巡回指導以外にも学生からの相談が受けられるよう実習専用の電話番号を相談窓口として設けている。

⑧「履修カルテ」等を用いて、学生の学修状況に応じたきめ細かな教職指導を行い、「教職実践演習」の指導にこの蓄積を活かしているか。

「保育・教職実践演習（幼稚園）」は上記のように自己の課題を分析することから始まるが、その際に「教職履修カルテ」や「教育実習録」を活用している。教職履修カルテについては基準項目2-1③にて説明した通り。

〔優れた取組〕

教育実習の履修要件を定めている。また、（１）教員に必要な基礎的な資質・能力を高めること（２）子どもを観察・指導する実践力を養うこと（３）教員の仕事や、その内容及び子どもへの対応等について学ぶこと（４）自らの現状と課題を把握し、今後の目標を明確に定めることを到達目標としており、常日頃から資質向上に努めるよう指導が行われて

いる。

〔改善の方向性・課題〕

「履修カルテ」を、より自分自身が成長できるカルテとして、活用を促していく必要がある。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料 3-1-①：シラバス「保育・教職実践演習」
- ・資料 3-1-②：シラバス「教育方法の理論と実践」
- ・資料 3-1-③：シラバス検索
https://hgujsys2.hgu.ac.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx
- ・資料 3-1-④：令和 6 年度シラバスの作成について（お願い）

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状〕

①学校体験活動や学習指導員としての活動など学校現場での体験活動を行う機会を積極的に提供できているか。

1 年次の「教育実習事前指導」において、2 年次の「教育実習」前に幼稚園見学などの実地体験を設けている。

②大学と教育委員会等との組織的な連携協力体制の構築をはかっているか。

浜松市教育委員会から「教育実習」の受入の承諾を受けている。

また、浜松市教育委員会の教員育成部会などに出席して組織的な連携協力体制の構築を図っている。さらに、本学の学校行事である「子どもフェスティバル」では、浜松市教育委員会の後援を得て、開催している。

③教育実習協力校と教育実習の充実を図るために連携を図っているか。

教育実習の充実に向けては、実習前より協力校との連携を緊密に図り、教育実習先への巡回指導の際、可能な限り責任実習を参観し、事後指導を行うと共に、更に実習先からの要望やご意見をうかがっている。また、緊急の事態が発生した場合には、担当教員が出向いて対応をしている。

〔優れた取組〕

地域と連携し課外活動に積極的に取り組んでいる。また、各体験実習先を教員が訪問し、コミュニケーションを積極的に図るとともに継続的に行えるよう努めている。

〔改善の方向性・課題〕

関係教職員全体で取り組みを行っているが、一層の近隣の、教育実習受入園と関係を構築していく必要がある。特に近隣の園との連携については、指導ならびにキャリア支援の充実を図るうえで必要である。本学では附属幼稚園も近隣にあることを活かし、一層連携を図っていく。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料 3－2－①：シラバス「教育実習Ⅰ」
- ・資料 3－2－②：シラバス「教育実習Ⅱ」
- ・資料 3－2－③：シラバス「教育実習事前指導」
- ・資料 3－2－④：シラバス「教育実習事後指導」
- ・資料 3－2－⑤：教育実習承認通知

Ⅲ．総合評価

本学の教職課程について、基準領域1「教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み」、基準領域2「学生の確保・育成・キャリア支援」、基準領域3「適切な教職課程カリキュラム」の3つの視点から自己点検・評価を実施した。

その結果、教員養成に対して真摯に取り組んでいることがわかった。

本学の教職課程における特色は、実務家教員を中心とした授業担当者の実践的な教員養成指導により、教員となった際に、本学学位プログラムの中で養成された資質・能力を学校現場の教育に活かせることにある。

しかしながら、今回の自己点検評価により、いくつかの課題が明らかになった。

基準領域それぞれの[改善の方向性・課題]で記したように、基準領域1では、教職課程教育の目的・目標を共有し、教職課程に関する組織的工夫が行われていることが分かった。全学的組織と学科の教職課程において、連携のための有効的な方策を立てる必要がある。

基準領域2では、教職を担うべき適切な学生の確保・育成やキャリア支援が充実していることが分かった。

本学は、昨年度（令和5年度）の卒業者で教員免許状取得者数は104名であり、そのうちの65%以上の68名が教職に就いている。その他36名もまた、保育所等に就職している。保育所等に就職した学生は、幼稚園教諭二種免許状を全員取得している。

基準領域3では、教職課程カリキュラムの編成・実施において、実践的指導力育成と地域との連携において、1年次からの教職課程教育の充実、教育実習に向けた実践的な指導、シラバスを確認して授業内容に工夫がされていることが分かった。

観察体験、教育実習等で近隣園と関係を構築しているだけでなく、本学のある静岡県
の教員育成指標を「学びの軌跡の集大成」科目である「教職実践演習」で参考としている。

今後も自己点検評価を重ねることで改善点・課題などを整理・把握し、大学内の組織の有機的な連携と体制を整えて課題解決に取り組んでいきたい。

Ⅳ 「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス

時期	内容
令和6年10月	自己点検・評価の実施方針の決定 自己点検・評価チェックリスト作成 作成のための情報・データ等の依頼連絡・調整
11月	自己点検・評価チェックリストでの点検・修正依頼
12月	自己点検・評価チェックリストの修正 資料・データ等の所在場所の確認
令和7年1月～2月	自己点検・評価チェックリストのとりまとめ 教職課程の自己点検・評価報告書の完成、報告
3月	教職課程の自己点検・評価報告書完成の報告 →運営会議にて報告

Ⅴ 現況基礎データ一覧

令和6年5月1日現在

法人名 学校法人 興誠学園						
大学名 浜松学院大学短期大学部						
学科名 幼児教育科						
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等						
① 前年度卒業者数						106
② ①のうち、就職者数（企業、公務員等を含む）						104
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数（複数免許状取得者も1と数える）						104
④ ②のうち、教職に就いた者の数（正規採用＋臨時的任用の合計数）						68
④のうち、正規採用者数						65
④のうち、臨時的任用者数						3
2 教員組織						
	教授	准教授	講師	助教	その他	計
教員数	6	2	4	1	0	13
教職課程教員数	4	2	3	1	0	10
相談員・支援員など専門職員数 2						